

# 「第10回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成30年12月

産業日本語研究会世話人会

顧問：長尾 眞	(京都大学名誉教授)
代表：井佐原 均	(豊橋技術科学大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(東京大学)
隅田 英一郎	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
潮田 明	(産業技術総合研究所)
清藤 弘晃	(日本特許情報機構)

## 開催趣旨：

### 人工知能時代の産業日本語

#### ～分かりやすい日本語の実現に向けて～

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語(「産業日本語」)のあり方を研究しています。この「産業日本語」の研究は、明瞭な日本語文の作成、高品質な翻訳文の作成コスト低減などにつながるものです。

出現当初、インパクトのあった人工知能、AIというキーワードが、昨今では、一般家庭の日常会話に当たり前に使われる時代となり、家族の一員として将棋の相手になるかと思えば、有能なヘルパーとなって電化製品の操作をサポートするなど、現代社会はすでに自然な形で「人工知能」を受け入れています。そして、ビジネスの分野においても、ニューラルネットワークをはじめとする人工知能技術により、多言語での情報発信や文章データ処理はさらなる発展を遂げてきました。

人工知能によって、日本語文書に対してより効率的な処理を実行し、また、各種情報の精度を向上していくためには、「産業日本語」が非常に重要な役割を果たします。人工知能は万能ではなく、出力データは入力データの質に影響を受けるため、入力データにあたる日本語の改善が必要不可欠です。そして、機械にとって処理しやすい日本語は、多種多様な人間にとっても共通して理解しやすい日本語として、技術者間のコミュニケーションの場でも活躍します。

このような背景のもと、本シンポジウムでは、この人工知能時代の中で我々に求められる日本語スキルや、データ活用を考えるうえで示唆に富む最新の取り組み・研究等についてご紹介いただきます。本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になることを期待しております。

産業界、学术界などからの、多くの皆さまのシンポジウムへのご参加をお待ちしております。